



棚

田

ライステラス

第44号 2006.12.25
(季刊・年4回発行)

発行／全国棚田(千枚田)連絡協議会

編集／ふるきやらネットワーク

〒169-0073 東京都新宿区百人町1-23-29-202

TEL 03-5389-9937 / FAX 03-5389-0078

http://www.yukidaruma.or.jp/tanada/

全国棚田(千枚田)連絡協議会



宮崎県日南市での第12回全国棚田サミット。ミニカンントリーウォークの光景

棚田サミットで新たな「絆」を！

第12回全国棚田サミットを終えて

谷口義幸

宮崎県 日南市長

「棚田・未来への継承～人の絆が棚田を創る～」をテーマとして、延べ1,450人の方々をお迎えし、「第12回全国棚田(千枚田)サミット」が感動のうちに幕を閉じました。

棚田のある坂元集落の先人達は、約70年前、茅場を開墾し、その後、泥と汗にまみれ、身の丈ほどもある石垣にへばりついて草を取り、棚田を守ってこられました。しかし、全国のほとんどの棚田は、高齢化や後継者不足などの問題で存廃の危機にあるのが実情です。

即ち、「日本の農業の原風景」と言われる美しくもやさしい棚田を坂元地区も含め、どう未来へ継承するか、その継承のキーワードとなる「絆」を今回の課題に取り上げました。

お陰で近年、オーナー制度などによって棚田を守り、未来へ引き継ごうという農村と都市の人々による交流の「絆」が創り出されています。Iターン者やUターン者も含め、その魅力を知っていただき、全国へと広がっていくことを期待しています。

今回のサミットが、これまでと大きく変わったことを紹介しますと、1つには、予算を3分の2程度と、大幅にカットしたことです。

その理由は、棚田を持つ中山間地の自治体は、ほとんどが財政難で、本市の後の開催地が決まらず大変困っていました。コンパクトな大会にしたこと、また、中島峰広氏をはじめとする選定関係者の皆様のご尽力により再来年まで決まってほっとしたというのが本音です。

今ひとつは、たくさんの方のボランティアの皆さんの参加をいただいたことです。

市内はもとより、東京など全国各地からたくさんの希望があり、そのため、地元グループには、「縁の下の力持ち」になっていただいたようなケースも出て、実に申し訳なく思ったほどです。

また、2日目の現地では、王子バンドやおカリナ演奏とともに、何と言っても酒谷小・中学校の生徒らによる発表やシングアウトキッズの歌声が、黄金色の田んぼに響き渡るなど「おもてなしの心」が参加者全員に大きな感動を与え、棚田保全の堅い「絆」を再確認したところです。

今回の「手づくり」のサミットで、多くの新たな「絆」が生まれ、次期開催地の栃木県茂木町へ引き継ぐことができたことに感謝申し上げ、お礼いたします。

